

順位	氏名（議席）	発言の要旨
11	笠井 浩（25）	<p>1. 富士市の子供たちと地域の交流の場を増やすことについて</p> <p>私の住む富士上中区では子供会が解散して10年以上たち、最近ではPTAの活動も滞りがちだと聞く。</p> <p>子供たちの遊ぶ環境をつくってきたこうした活動が滞ることは、富士市の子供たちの育成や地域との関わりに多大なマイナス影響を与えてしまうのではと思い、以下質問する。</p> <p>(1) 子供会活動の近年の様子について、校区・単位子供会の数の推移を含めて伺う。</p> <p>(2) PTA活動の近年の様子について、活動の状況等について伺う。</p> <p>(3) 補助制度の創設等、地域全体で子供たちが参加できる取組を推進すべきだと考えるがいかがか。</p> <p>2. 高校生向け企業説明会について</p> <p>商業労政課を中心に各層向けの就職相談会や企業説明会などを実施していただいている。人手不足は中小・小規模企業にとって深刻な問題である。今後もこうした取組に力を入れるべきだと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 就職相談会や企業説明会の開催状況と参加者の推移について伺う。</p> <p>(2) 最近、中小企業家同友会が高校生向けに合同企業説明会を企画しているが、市としてどのように関わっていくか。</p> <p>(3) 上記高校生向けの合同企業説明会は、就職を希望している生徒以外にも対象としていることから、キャリア教育の一環として富士市立高校の生徒も参加すべきと思うがいかがか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
12	鈴木 幸司（16）	<p>1. 富士市の技術系職員の充足状況等について</p> <p>総務省は2023年4月現在、全市区町村のうち、約39%で建築技師が、約26%で土木技師が不在であるとの公表をしている。</p> <p>例えば土木系の職員の場合、平常時は老朽化したインフラの点検や道路・河川の整備などを行い、災害時には公共施設の復旧工事などで中心的な役割を果たしている。しかし技術職で採用されるには大学での専門課程の履修などが必要で、一般の事務職などと比較して採用の対象者が限られている。そうした状況を打破しようと、富士市では若手の土木系職員を確保するため、土木の専門試験を課さない採用方法を取り入れるなどの工夫を始めていると伺った。</p> <p>そうした人材の確保・育成により技術系職員を増やす一方、ICT化などにより働き方自体を見直したり、外注できるものは民間に任せるなどの工夫も必要でないかと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 来年度の技術系職員の採用状況はいかがか。</p> <p>(2) 土木の専門試験を課さない採用方法を導入した人材確保の効果は。</p> <p>(3) 現在、新病院の設計を控えているが、今後の建築技師の充足状況の見通しは。</p> <p>(4) 令和2年11月定例会で、小規模工事の対象金額を県レベルの2000万円も勘案しながら前向きに検討するとの答弁があったが、そうした改善は技術系職員の負担を軽減するためにも、早急に行うべきではないか。</p> <p>(5) 監督・検査の合理化等の推進を、国は建設業働き方改革加速化プログラムによって示したが、その対応状況は。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
13	笹川 朝子（13）	<p>1. 富士川歴史街道について</p> <p>富士川歴史街道について、交流観光課作成のウォーキングマップ「ぶら～りふじかわ」があります。歴史と地図が詳細に記され、折りたたむとコンパクトになり、手に持ったりバッグに入れることもできて重宝します。マップの中の旧東海道の歴史を訪ねるという記事には、ダイジェストA、Bコース、フルコースの3コースがあり、いずれもJR富士川駅を出発し、また戻ってきます。休日にはJRを利用して多くの観光客が訪れますが、コースを歩いてみると、観光客に対して親切な案内がありません。</p> <p>そこで、気持ちよく観光していただくための整備について、以下伺います。</p> <p>(1) 現況をどのように認識しているか。</p> <p>(2) 民俗資料館の入り口に案内表示がないため、設置すべきと考えるがいかがか。また、紙すきに関する資料が収納庫にしまわれ、活用されていない理由は何か。</p> <p>(3) 民族資料館横の女性活動センターは、窓に板が打ちつけられ、長らく廃墟状態になっており、安全上も見た目もよくないが、どのような計画でいるのか。</p> <p>(4) 富士川ふれあいホールに展示している高瀬舟は、ウォーキングマップのコースの中にある渡船上り場常夜灯と一体のものだが、現況は展示というより掲示物パネルに隠され、追いやられているという印象があるため、展示の工夫が必要と考えるがいかがか。また、高瀬舟に直接触れたり乗ったりできるようにすることで、理解につながると考えるがいかがか。</p> <p>(5) 古谿荘の修復状況を見学できるようにすることはできないか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	荻田 丈仁（28）	<p>1. 富士市東部地域の浸水常襲地への対応・対策の強化について</p> <p>市東部地域の浸水常襲地では、過去17年の間に5回の甚大な浸水被害が生じており、富士市議会では、江尾江川流域で令和3年に甚大な浸水被害が発生したことで、国、県に対して東部地域の浸水軽減への意見書を提出した。</p> <p>昨年6月2日に、江尾江川流域付近で甚大な浸水被害が発生してしまったが、浸水被害後の対応を進めてくれている。ただ、本年度に入り、5回の大雨警報が発令されており、その都度、区役員及び水防団は待機しての対応をされているが、頻繁に大雨警報が発令される状況に、地域の大きな不安の声は収まらない。また、東部地域では、江尾江川流域以外にも天ヶ沢や日常生活に大きな支障を来す常習的な冠水道路の早期改善が求められている。異常気象でのゲリラ豪雨、線状降水帯等の大雨が頻発する中では、いつ甚大な被害が発生してもおかしくなく、防災対策の強化はもとより今まで以上の水害軽減が実感できる対策や軽減策への迅速な対応が求められる。同時に、被害後の復旧への対応として災害時臨時集積所等に取り組まれているが、今後、市上水道への統合が進むことで、大雨後の環境整備に活用している現在の消火栓等がなくなることへの不安もある。</p> <p>甚大な浸水被害が繰り返される東部地域、特に江尾江川流域での水害軽減や復旧作業への対応は、市として市民に寄り添った中であらゆる対策を早期に実現し、今ある計画についてはスピード感を持って全力で進めるとともに、以前より求めている広域的な連携強化を具体的に進めながら、新放水路の早期供用や沼川の整備推進について確実に実現すべく、以下質問する。</p> <p>(1) 浸水被害後の度重なる大雨警報時の対応はどのようにしているのか、また、緊急的に排水ポンプが利用されているが、今後の緊急排水ポンプの活用はどのように進めるのか。</p> <p>(2) 昨年、浸水被害が出た後に行ってきた対策の効果は確認できているのか、また、浸水被害が出てしまった後のごみ処理や、道路の泥等の撤去への対応や復旧をどのように進めていくのか。</p> <p>(3) 天ヶ沢での対応はどのように進めているのか。</p> <p>(4) 常習的な冠水道路への対応はどのようになっているのか、特に日常生活に大きな支障を来す吉原浮島線への対応は進めなければいけないと思うがいかがか。</p> <p>(5) 江尾江川水災害対策プランの取組状況についてと、新たな浸水対策が求められているが現状はいかがか、また、新たな沼川河川整備計画を求めるときと思うがいかがか。</p> <p>(6) 沼津市と富士市の静岡県東部地域二市広域行政連絡会において、水害対策等についてどのような話合いや取組が行われているのか、また、両市での要望活動はどのようなものか。</p> <p>(7) 水害に悩まされる両市で対策を進める上で、災害対策などのために市域を越えて災害時における具体的な連携を進めるべきと思うがいかがか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	下田 良秀（17）	<p>1. 令和6年度全国学力・学習状況調査で小学校及び中学校の全教科の正答率が全国平均を下回った富士市の教育の課題と改善策について</p> <p>我が国で実施されている全国学力・学習状況調査（以下、「同調査」という。）は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として行われている。</p> <p>また、その結果を学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てたり、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが行われている。</p> <p>富士市においても同調査が行われており、同調査が生徒の学力の全てを表すものではないことは十分理解しているが、同調査の結果として富士市の小学校、中学校共に各教科の正答率が全国平均以下となっていることは大きな課題だと考えるため、以下質問する。</p> <p>(1) 同調査の過去の結果や全国その他の公表データとの比較等の分析も含め、本市の教育の課題をどう捉え、どのような改善策を行っているのか。</p> <p>(2) 学力の富士市内における地域間格差を問題視する声があるが、現状とその対策をどう考えるか。</p> <p>(3) 同調査の結果は、少子化対策や若い人口の確保を重点施策とする本市にとって、これから我が子を教育する地域を選ぶ際に、マイナスと取られる可能性があると考え。教育委員会が所管する教育だけでなく、様々な教育が注目される中、庁内での連携、官民連携等、このような状況を打破するため、どのような施策を講じていくか。</p> <p>2. この10年で新生児数の減少割合が全国平均より早く進んでいる状況にある富士市における少子化対策について</p> <p>我が国において、また富士市においても、少子化対策は非常に重要であり、様々な施策が行われている。本年度の施政方針においても、第1に少子化対策に関連する取組が示されている。また、過去に遡っても少子化対策の優先順位は高いものとなっている。</p> <p>本年2月定例会で、我が会派、心政富士が行った施政方針に対する代表質問では、市長から、富士市の少子化の現状は、全国平均よりもさらに下回っているという数字が示されたが、富士市として何か特別な理由があるのかも含めて調査したい。また、明確な目標設定により必要な行動を示すことが非常に重要であり、私も積極的に情報発信し、メッセージを伝えていくことの両方に取り組んでいくことが、チーム富士市として一丸となって取り組んでいくことにつながっていくと考えるので、前向きに検討したいという主旨の答弁をいただいている。これを踏まえ、以下質問する。</p> <p>(1) なぜ富士市の少子化が全国平均よりも早く進んでいるのかの調査の結果と分析はどうなっているのか。</p> <p>(2) 少子化対策における明確な目標設定と情報発信の現状はどうなっているのか。</p>